高木市之助全集

講談社

高木市之助全集　第十巻　　定価三八〇〇円

詩酒おぼえ書き・淡閑吟

昭和五十二年三月三十一日　第一刷発行

著　者　高木市之助
発行者　野間省一
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一・郵便番号一一二
電話・東京（〇三）九四五―一一一一（大代表）
振替・東京八―三九三〇

印刷所　株式会社精興社
製本所　牧製本印刷株式会社

©高木市之助　昭和五十二年
落丁本・乱丁本はお取りかえいたします

Printed in Japan　　0391-423302-2253(0)　（術A）

詩酒おぼえ書き・淡閑吟

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

目次

I　詩酒おぼえ書き

詩酒おぼえ書き

草堂四季

四つの友情……5

古典をいじる……7

銭湯の春……11

梅雨酒……13

うちの冷房……15

記紀歌謡の植物園……18

書斎の秋……23
落葉……27
新年喪失……31
旅情今昔
車窓四季……34
満韓郷愁……47
なのりその花……62
小鳥の季節……65
かがり火……66
北の雨・南の雨……72
湖想……77
万葉は台風をうたう……84
中年の旅情……87
採訪余録

おしょくりうた覚え書き……92
麻かき乙女……95
唄栄さんとポンプつき……102
高い山から……106
よさこい漫談……115
木曾節アメリカ版……119

藝能漫語

藝談三つ……130
怪談あれこれ……134
白毛女と老国文学者……141
チャプリン三題……145
お二人さん……152
短冊への愛情……158
ある対話……161

まんさん
酒仙と酒豪……165
酒仙薄命……167
晩酌……170
玉杯……173

本の周辺

一　書評

西郷信綱著『日本古代文学史』……178
川崎庸之著『天武天皇』を読んで……179
久松潜一著『日本文学史』……184
津田博士の『日本文藝の研究』を読む……186
西郷信綱・境野みち子・阪下圭八共編『日本民謡集』をすすめる……188
太田水穂著『日本和歌史論・上代篇』を読んで……192

「原型」覚え書き――荒正人氏に答える……194
北山茂夫著『万葉の時代』……196
西郷信綱著『日本文学の方法』……201
山本健吉著『古典と現代文学』――国文学者の立場から……202
吉野裕著『防人歌の基礎構造』について……207
犬養孝氏著『万葉の風土』と風土文藝学……211
窪田空穂著『万葉秀歌』上下……217
沢瀉久孝著『万葉歌人の誕生』……218
土岐善麿著『万葉以後』……221
荒木良雄氏の『中世文学の形成と発展』を読む……224
日本古典文学大系『万葉集』(一)の書評に答える……228
田辺幸雄氏の『初期万葉の世界』とその評価について……231
叙事詩的抒情の方法――土岐善麿著『歴史の中の生活者』の場合……236
西郷信綱著『万葉私記』第一部「初期万葉」を読んで……242
志田延義著『日本歌謡圏史』の意義……247
現代を規制する古典――現代版古典日本文学全集『万葉集』上・沢瀉久孝著『万葉集注

釈』巻五……252
大著的なスケール――久松潜一著　和歌史第一巻『日本詩歌概論』……254
土居光知著『古代伝説と文学』……255
森脇一夫歌集『風紋』読後……257
金字塔建つ――故風巻景次郎博士の遺著……259
窪田章一郎著『西行の研究』と私……261
後藤利雄著『人麿の歌集とその成立』……264
山本健吉著『柿本人麻呂』……266
渥美博士の『平家物語の基礎的研究』について……268
中西進氏の大著を語る――『万葉集の比較文学的研究』……272
水島義治氏著『万葉集東歌及び防人歌』……278
松田さんの近著『あの花・この草』をすすめる……280
板本太郎著『歴史随想　菅公と酒』……283
『定本石川啄木歌集』と著者への期待――岩城之徳氏の新著に寄せて……284
冨倉徳次郎著『平家物語上』を手にして……287

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

表現万葉学一夕話――瀬古確著『万葉集に於ける表現の研究』……289
鯉沼昵著『巨大なる零』の意義……291
谷崎にとって訳ということの意味……295
土居光知著『言葉と音律』……300
和歌『白芙蓉』をとおして新村先生を偲ぶ……302
益田勝実著『記紀歌謡』……306
大岡信著『たちばなの夢』……308
吉野裕著『風土記世界と鉄王神話』……310

二　序文・跋文・その他

『藁火』序……316
『近代短歌の感覚』序……317
『万葉集大成　民俗篇』跋……319
『万葉集大成　歴史社会篇』跋……322
『平安時代医学の研究』序……325
『万葉集大成　風土篇』跋……327

『古事記大成　文学篇』あとがき……329
井手恒雄君を推す――『日本文藝史における無常観の克服』序……330
『志賀直哉の文学』序……332
『鎌倉時代医学史の研究』序……355
瀬古確著『日本文学の自然観照』序……338
毛利孝一著『善意の人々』序……340
『採譜本平曲』序……342
鈴木朖顕彰会『鈴木朖』序……343
鈴木知太郎著『平安時代文学論叢』推薦……345
後藤重郎著『新古今和歌集の基礎的研究』序……348
『日本文学評論史』が出た頃……350
『かしのみ』の作者を憶う……354
平家物語による群読『知盛』……360
『上代文学の発生』と風巻君……361
楠井不二著『評伝伊良子清白』を読んで……363
河崎五十著『環山居雑詠』序……364

II　淡閑吟

増補　淡閑吟

短歌……368
詩編……411
校歌……439
解説……久徳高文……453
解題……深萱和男……466
年譜……478
著述目録……483
和歌歌謡索引……505

I

詩酒おぼえ書き

はしがき

随筆がたまったろう。この世の置き土産に出しておけと勧められた。そこで私の人生の支えになっているらしい、詩と酒に縁のありそうなしろものだけを選り出してみた。いちいち掲載した雑誌新聞、話したラジオなどをことわるのが礼儀作法かもしれないし、現に学術的な論文集などでは、私もそうしてきたが、詩とか酒とかいうものは本来がそういう窮屈袋を脱ぎ棄てさせるものなのではないかと思うので、いちいちしつこく〝出典〟を届け出てはいない。雑誌なら「文藝春秋」や「世界」、新聞なら「朝日」や「中日」や「東京新聞」、ラジオならＮＨＫやＣＢＣその他大勢と心得ていただきたい。執筆の時代や場所はまったくさまざまでたらめである。「中年旅情」を書いたのは中年の頃でも今はあいにく中年ではないし、「妙香山水」では私のような者でも平気で三十八度線の向こうを歩いていられたというわけ。「故人今人」は私が尊敬したり、親しかったりした人たちをその順序に選んだわけではない。これらの人々よりももっと私が敬愛している故人今人はいくらでもいる。などというのがそもそもこの本のはしがきらしくもない言いわけなのだ。失言をとり消そう。そういえばとり消したいものに挿入の私の写真どもがある。正直にいって、こんな本を誰がいったい読んでくれるだろうと思わず目をつむったとき、眼前に彷彿したのはやっぱり、旧知のたれかれの顔で、田舎の書店などで偶然にもこの本を手にしてくれる、これらの顔の持ち主がいたとしたら、ほんとうに楽しんで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com